

# 低学年における説明文教材の指導

(読みを深めるためのワークシートの活用)

足利市立筑波小学校低学年部会

伊藤 順一 青木 文子

山田 耕蔵 長谷川由美

## 1 研究主題

本校では、「ひとりひとりの子を見つめ伸ばす指導のあり方」を学校研究課題として取り組んできた。本年度は栃木県教育研修センターより国語科の研究協力校として指定された。

そこで、栃木県学力水準調査の結果をもとに、副主題として「説明的文章の解説指導を通して」を設定し、児童一人一人の説明的文章の読解力を高めるために、どのように指導方法の改善を図ればよいかを中心に据えて研究を進めてきた。

## 2 研究主題達成のための仮説及び具体策

研究を進めるに当たって、低学年の研究テーマ「何について、どんなことが説明されているのかを正しく読み取らせる指導はどのようにしたらよいか」とし、さらに、研究主題達成のための仮説と具体策を次のように立て、授業実践を通して研究を進めてきた。

**仮説1** 児童一人一人の学習意欲を大切に、個人差を配慮して指導計画や学習指導法を改善していけば、児童の学習能力は高まるであろう。

**仮説2** 学習活動の中で児童の疑問や興味・関心を揺さぶる場面を設定することによって、知的感動を呼び起こし、説明的文章の読解力を高めることができるであろう。

### 仮説の具体策

#### (1) 低学年の理解領域における指導の重点と内容を明らかにする。

説明文とは、ある事柄について相手に知らせ分かせようとする文章のことである。そこには、何らかの話題があり、題材がある。それらに関して述べられている知識・情報があり、それらを盛っている論理的記述の文章表現がある。児童の身近な生活の中から、興味・関心のある題材を取り上げた説明文を読ませることのねらいは、説明文に盛られている知識・情報を表現に即して正確に理解し摂取する能力を高めると共に、文章の内容と自分の生活や意見と比べながら読むことにより人間改革に役立てることであろう。また、説明文読解を通じて論理的・客観的な思考力を高めたり、説明文読解技能を修得し、自分の文章表現に生かすことができるようにすることである。

学習指導要領の「理解」領域の1、2年生の指導の重点、指導事項を抜粋し、系統性を見ると次のようにまとめることができるであろう。 ○ 学年の重点 ◎ 学年の最重要

重 点	内 容	指 導 事 項	1年	2年
1 年 書かれている事柄の	音読	はっきりした発音で音読すること。	◎	→○
		文章の内容を考えながら音読すること。		◎

大体を理解しながら文章を読むことができるようにする。 2年 ↓	→	内容理解	文章の内容の大体を理解すること。 時間的な順序、場面の移り変わり、事柄の順序などを考えながら、文章を読んだり、話を聞いたりすること。	○ → ◎	
		細部	文章の叙述に即して正しく内容を読み取ろうとすること。		○
事柄の順序や場面の様子の移り変わりを中心にして内容を理解しながら、文章を読むことができるようにする	→	語句理解	文章を読みながら、読めない文字、意味の不明な語句、理解できない箇所などをはっきりさせること。	○ → ◎	

1年の重点目標として「大体」が取り上げられ、理解(1)イ「文章の内容の大体を理解すること」とあるが、説明文では「何について、どんなことが書かれているか」を正しく読み取らせることが基本であろう。そこで、題材名を手がかりにしたり、文章を何回も読んだり、繰り返し使われている言葉を手がかりにして「何について書かれているのか」「何がどうだ、何がどうした」と書いてあるのかを読み取らせていくことが大切であろう。そのためには、説明している事柄に直接関係のある文字や語句の読み方や意味の理解、「何がどうである」の主語と述語の照応関係、接続詞、文末表現などの言語事項の指導が支えになるといえよう。

2年の重点目標として「順序」が取り上げられ、理解(1)イ「時間的な順序、場面の移り変わり、事柄の順序などを考えながら文章を読んだり、話を聞いたりすること」とある。「順序」は、「時間の順序」「事柄の順序」である。そこで、順序を読み取るには、順序性を表す言葉、時間を表す言葉、場所や方向を示す言葉などを手がかりに読み進ませることが大切であろう。主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、接頭語、指示語や接続語の役割と使い方などの言語事項の指導が支えになり、叙述の展開に従い統一あるものとして前後関係を読み取ることによって、説明文の内容を正確に理解する方法を学ばせることが大切であろう。

(2) 一人一人の知的好奇心を高める学習課題を構成する。

「知的好奇心とか知的感動とかを狙わない説明文の指導があるのか。」と言われればそのとおりである。教養・娯楽のため、または余暇の利用として読まれる文学作品とは趣を異にし、説明文は、興味・関心をもつことや、知りたい、調べたいなどの必要感によって説明文が読まれるのが自然な姿であるといえよう。また、同じ教材を読んでも、知的な好奇心や知的な感動、知的な満足感や喜びを感じる内容や程度には差があるのは当然と言えよう。しかし、与えられた教材であっても児童一人一人が楽しく、意欲的に、本気で学習に取り組めるような指導のでだてが必要になるであろう。そのでだてとして学習課題の構成が重要な役割を果たすものと考えた。学習課題を構成するために次のような方法を試みた。

① 第1次感想で持った感動や共感、新しく知った喜び、詳しく調べてみたい疑問や問題などの問題意識を自由に話し合いながら全児童の問題意識にまで育て上げる。

② 題名や冒頭、書き出しなどから、読みの観点を明確にすると共に、観点を教材のはじ

めから終わりまで一貫する。この観点を明確にすることは、低学年の認識においても表現においても最も基本的なことであり、児童に学ばせることが大事なことであろうと考えられる。

これらの第1次感想で育てた問題意識と題名や書き出しなどから明確にした観点をもとに全体に共通な学習課題を設定し、学習計画を立てていくことにした。

(3) 一人一人の読みを深めるためのワークシートを工夫する。

児童が分かるよい授業を成立させることは教師である以上誰でも願うことであり、教師として日夜努力していることである。児童が分かる良い授業を成立させる必須の条件は、児童一人一人が課題意識を持ち、意欲的、主体的に学習活動に取り組み、なお教師の指導目標に沿った指導事項が十分に達成できることであろう。

元来、学習は個別に成立するものである。一斉学習の中での話し合い学習に終始するような学習指導では、ある一部の児童のみの活動に陥る危険性があり、学習の個別化にはあまり有効とは言えないであろう。そのような指導方法上の工夫の一つとして「ワークシート」の活用が考えられる。児童一人一人が学習の目当てを明確に持ち、自分の力で「読む」「書く」「考える」などの活動が可能であり、学習の個別化を図ることができるであろう。ワークシートの作成に当たっては、次の点に留意した。

- ① ワークシートを活用するといっても、使用目的や学習指導過程の「どこに」位置づけるのかによって機能や種類が異なるはずである。そこで、本校では理解を深めるためのワークシートの作成に重点をおくことにした。
- ② 1単位時間のワークシートと、教材全体をとらえることができるワークシートを作成する。このことにより、「説明の大体」「説明の順序」「段落の要点」「段落相互の関係」「全文の構成」「要旨」「要約文」などがとらえやすくなるであろうと考えた。
- ③ 児童の実態調査の結果をS-P表に作成し、その児童の学力差の傾向に応じた何層かのワークシートを作成する。また、児童の興味・関心、知的好奇心、問題意識等の違いに応じたワークシートの作成も試みる。
- ④ 理解を助けるために学習の方法、指示などをつけて書き込みやすく配慮する。また、絵や図などをつけて楽しく学習したり、理解しやすくしたり、書き上げたものが美しく見えるように工夫する。

(4) 机間指導による学習の個別化を図ると共に、達成基準を明らかにして評価する。

ワークシートを使用した学習の場では、学習内容や方法、指示事項の理解、問題点やつまづきなどを個別に指導すると共に、個人の学習を全体の中で生かすための資料収集などに役立てる。

### 3 実践例

#### 国語科学習指導案

1年1組 指導者 伊藤 順一

- 1 単元名 はじめて わかった ことは  
どうぶつの赤ちゃん 説明文

#### 2 単元の目標

##### (1) 価値目標

動物の赤ちゃんの、生まれたばかりの様子と、大きくなっていく様子を読み取り、生命の誕生と成長について新しく発見した驚きや知った喜びを大切にしながら、自然の摂理に目を向けると共に、自分たちの生活環境をも見直し、親子の愛情を感じる事ができる。

##### (2) 技能目標 (理イ)

- ① それぞれの動物の赤ちゃんの生まれたばかりの様子や大きくなっていく様子の特徴を比べながら、何についてどのように書いてあるのかに注意して読み取ることができる。
- ② 動物の赤ちゃんの様子がよく分かるように、音読することができる。 (理ウ)
- ③ 動物の赤ちゃんの文章を読んで、分かった事柄を順序をたどって書いたり、まとめた部分を正しく視写したりすることができる。 (表オ)
- ④ 文中の主語と述語の照応「何がどうである」に気づくことができる。 (言ス)
- ⑤ 肯定、否定の表現の役割や、文中の一つ一つの語句の意味や使い方について関心を持ち、文脈やさし絵とむすんで考えることができる。 (言サ・シ)

##### (3) 態度目標

自分から進んで調べたり、やさしい読み物を読もうとする態度を育てる。

3 教材観 (省略) 文章で記述したものを、説明文教材分析表にまとめた。

4 児童の実態 (省略)

5 指導計画 (省略) 文章で記述したものを、説明文教材分析表にまとめた。

#### 6 本時の指導

(1) 題材 どうぶつの赤ちゃん

##### (2) 目標

- ① しまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子を、ライオンの赤ちゃんと比較しながら読み取ることができる。
- ② 助詞「も」の働きや使い方を助詞の「を」と比べ、使い分けることができる。

(3) 本時に関する評価基準 (省略)

(4) 展開





(4) 展 開

展開は、作成した指導案の内具体目標、学習活動、指導上の留意点の主なもののみを記し、段階、時間、評価については、紙面の都合で省略した。

◎印は、同和教育上の配慮

具 体 目 標	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>○ 前時の学習を想起し、本時の学習のめあてを把握することができる。</p>	<p>1 本時の学習のめあてをつかむ。</p> <p>(1) 学習計画をもとにしまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子を読み取ることが学習課題であることを確認する。</p> <p>(2) 学習の観点をワークシートに書く。</p>	<p>○ 前時のしまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子とライオンの赤ちゃんの様子を比較すると大きな違いがあることを話し合い、大きくなっていく様子についても読み取ろうとする意欲を喚起する。</p> <p>○ 前時までに学習したそれぞれの動物の赤ちゃんについて、生まれたばかりの様子と大きくなっていく様子とをまとめたワークシートを教室の前面に掲示しておく。</p>
<p>○ 発音、口形、速度に気をつけて、音読することができる。</p> <p>○ しまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子、成長がはやい理由を読み取ることができる</p>	<p>2 しまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子が書かれている段階を読む。</p> <p>3 しまうまの赤ちゃんが大きくなっていく様子、成長がはやい理由を読み取る</p> <p>(1) 各自のワークシートに書く。</p> <p>(2) A、Bワークシートごとに読み取ったものを持ちより、グループワークシートを作成する。</p>	<p>○ 指名音読、一斉音読をさせ、読みの速度、口形、発音、姿勢等に気をつけさせながら音読させる。</p> <p>○ ワークシートは、成長を時間で表している部分を読み取るワークシート（A）と、行動できるようになっていく様子の部分を読み取っていくワークシート（B）とを与え、いずれかのワークシートを児童の問題意識、興味・関心等によって任意に選択させて、一人学習に当てる。</p> <p>○ 机間指導を通して、ワークシートの選択や読み取りの指導・助言をする。</p> <p>○ A、Bワークシートそれぞれについて、さらに学力差に応じたワークシートを作成しておく。</p> <p>○ A、Bワークシートを持ちより、読み取ったことを発表し合い、絵や文のカドをグループワークシートに貼付させる。</p> <p>◎ グループ学習のとき、一部の児童が勝手に進めたり、読み取りを誤った児童を責め</p>





どろぶつ の 赤ちゃん 一ねんくみ書  
 がくしゅうの めあて

しんまつまの 赤ちゃんの  
 よみとりつ。  
 できるところ

どろぶつがどくらいたつと どんなことが  
 できるよつになるのかを しらべてね。  
 ぼくが、じぶんで 立ちあがるまでに  
 なんぶんぐらいだと かけて あるてし  
 とう



そればかりではなく、  
 はしれるんだよ。  
 できるところ



それで まうかじに かいある おまかせ。  
 つよい どろぶつに おそわれ  
 ても、おかあさんと いっしょ  
 に にげることも できる。



おかあさんの おちちだけ のんでい  
 るのは、ライオンより すつと むじか  
 なんだ。  
 そつなんでまう。  
 できるところ

とまりの 人が おわらななみだの 人が おわつたら、よたりに、はなしあひ  
 やりしし...とまりの 人が おわつたら、よたりに、はなしあひ  
 ました。

グループワークシート

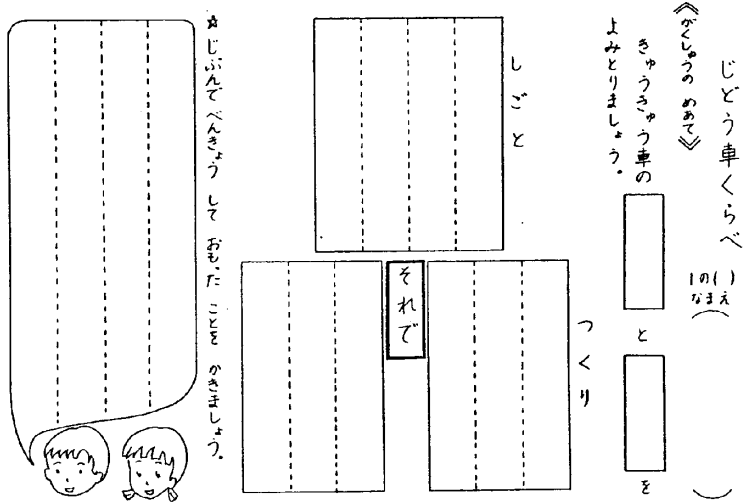
	え	できるところになること
	いっしょ	
	それで	つよい どろぶつに おそわれ ても、おかあさんと いっしょ に にげることも できる。

(5) 作成したワークシート例

(1) 1年教材 「じどう車 くらべ」の一部

本時の目標 ① 「救急車」の働きやつくりの特徴について、大事な言葉をおさえながら、説明している内容を正確に読み取ることができる。

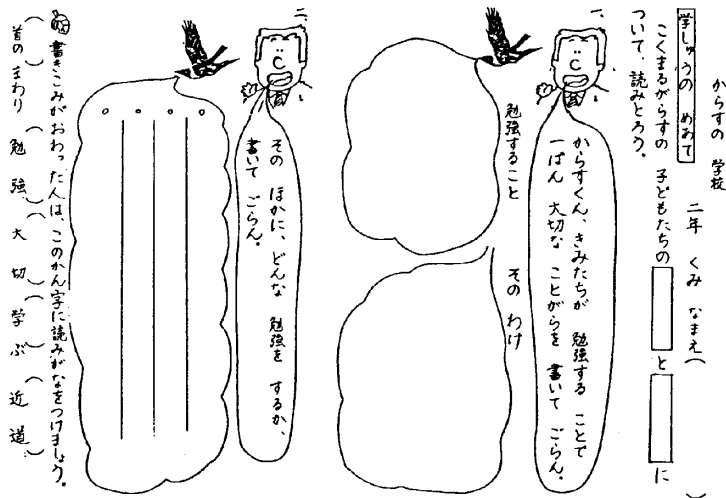
② 接続詞「それで」の働きや使い方が分かる。



(2) 2年教材 「からすの学校」の一部

本時の目標 ① こくまるがらすの子供たちが勉強する事柄と、それらを勉強することの大切さを読み取ることができる。

② 接続語「だから」の働きや使い方がわかる。



学ぼうのめあて

こくまるがらすの 子どもたちの ついて、読みとろう。

ぼくたちが おとなに なるために いろいろな 勉強を することを おしえますよ。

おとな

勉強して おぼえるのです。

① ぼくは、すんの勉強が

② わたしは、しの勉強を

③ ぼくは、これから の勉強を

④ わたしは、たわよ、たわよ、

⑤ 首のまわり、勉強、大切、学ぶ、近道

(3) 2年教材 「たんぼぼの ちえ」の一部分

本時の目標 ① わたげができるころ、たんぼぼのじくが背伸びをするという知恵を、読み取ることができる。

たんぼぼの

このころ、はもと、

それまで、たおれて、いた、花のじくは、どうなるのでしょうか。

また、

そうして、

せのびをするように、


たすねている丈、

このころの文、

それは、

このころのたんぼぼの、ようすと、絵に、かいて、なまじゅう、

二年、なまえ



## 4 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

- ① 単なる知識・理解、読解の技能ばかりでなく、教材の持つ価値にまで分析し、指導内容を明確にしていくことが大切である。
- ② 一斉指導から個別指導へ（ワークシート）さらに一斉指導へという学習指導過程において、個の意見を大切に取り上げたり、的確に指示することができるようになった。
- ③ 本時の課題を明確にとらえさせ、教材文を読み、ワークシートに書き込み、話し合うという一つのパターンが定着したので、児童にとっては学習に取り組みやすかった。
- ④ 児童の実態を把握し、能力に応じたワークシートの作成に力を注いできたため、児童が意欲的に書き込み、理解しやすい授業の展開ができた。
- ⑤ ワークシートを使用すると指導の個別化が図りやすく、能力の低い児童、消極的な学習の進め方をする児童でも主体的に取り組むことができるので学習活動が活発になる。
- ⑥ ワークシートを作成するためには教材をどのように解釈し、分析するかが大切であるため、説明的文章の読解を支えている指示語や接続詞をはじめ、指導の過程でおろそかにされがちな言語事項について教師の意識が高まった。また、児童の言語に対する意識が高まり、理解も深まってきた。
- ⑦ ワークシートを児童が自由に選択し、机間指導をとおして教師が指導・助言を与えて選択しなおさせる方法を取ってきたが、実態を捕らえているのであるから、教師の方で与えるような方法も考えていく必要がある。特に、自己理解できない低学年においては、児童に選択させることが難しい。
- ⑧ 学習展開において学力差に応じたワークシートの作成の研究に重点がおかれすぎ、そのワークシートを効率よく活用させるための学習スタイルの研究が十分ではなかった。

### (2) 今後の課題

本年度は、研究主題である「ひとりひとりを見つめ伸ばす指導のあり方」について、特に、説明的文章の読解指導をとおし、学力差を中心に据えた研究であり、学力差に応じたワークシートを活用して、全児童の学習の成立や学習の目的を到達させようと研究を進めてきた。しかし、研究主題である「ひとりひとり」ということを考察するならば、学力差だけでは解決できるものではないであろう。当然そこには学習の個性化、指導の個別化を十分検討し、研究の方向及び方法を研究していくことが重要であろう。

そこで、来年度は本年度研究をしてきたワークシートの改善を図りながら、児童の学習の達成度としての学力差、学習のペースの個人差、生活経験的背景の個人差、発想や思考の進め方の個人差、学習意欲の個人差、学習態度の個人差、学習スタイルの個人差等多面的・多角的な視点に立って、ひとりひとりの子に応じた学習指導法の改善を進めていくことが大切であろうと思われる。

## 評

一般に説明的文章の読解は文学教材に較べて、とっつきにくいと言われている。それは説明的文章の論理的な筋の運びに慣れていないことや文学教材のように、人間の心のふれあいを読みとって深い感動をおぼえたりするものではないからである。

しかし、説明的文章にも文学教材に劣らない未知との出会いによる感動は存在する。ただそのとりあげ方や深く感動させるために、指導の構想を組み立てる段階で資料収集の不足や時間の不足のため、どうしたらよいかわからないままワンパターンの授業をやらざるをえなくなり、感動をおぼえるに至らないというのが一般的ではないだろうか。

こういう状況において、本研究は一人一人の子どもに「わかる」ことをねらいつつも、特に低学年において、子供たちの学習意欲に目を向けて、楽しみながらすすんで取り組めるように、教材解釈や教材分析等を通して読みを深める工夫に重点が置かれ、説明的文章の読解に貴重な示唆を与えてくれる研究である。

特色をまとめると、次のようなものをあげることができる。

- 1 児童の疑問や興味・関心を大切にし、知的好奇心を高めるため、学習課題を把握する工夫が見られる。
- 2 一人一人の子供が読みを深めるために、すすんで取り組めるよう、ワークシートに工夫がなされている。
- 3 教材解釈を深め、教材分析を綿密にして、指導内容の精選等を図り、何を読みとるか、ポイントがおさえられ、個別化の手立てや学習形態が位置づけられている。

特に本研究はワークシートを重視し、一人一人に応じたワークシートばかりでなく、他校ではほとんど見られないグループワークシートを使用するなど大いに参考になる点がある。

眼の前で低学年の子供たちが目を輝かせて、文章をもとに話し合いながら、グループワークシートに取り組んでいる姿が、意欲をもって説明的文章の読みを深めている何よりの証拠を表していると言えよう。

今後ともこの面の研究の継続を期待します。